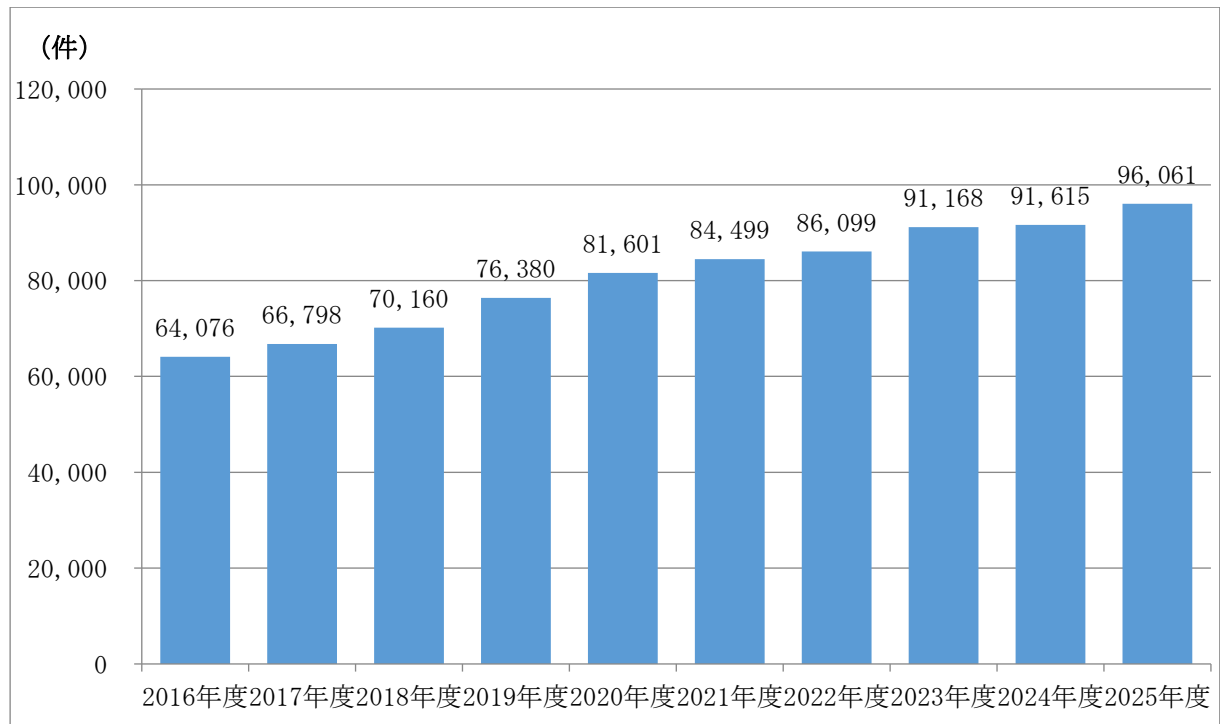


抗悪性腫瘍剤混合調製件数



2025 年度も抗悪性腫瘍剤混合調製件数は増加傾向を示している。背景として、がん患者数の増加に加え、新規抗悪性腫瘍剤の導入や治療レジメンの高度化・複雑化が影響していると考えられる。

抗悪性腫瘍剤調製業務は、医療安全および職業性曝露対策の観点から高い安全管理が求められる業務であり、現在は全ての抗悪性腫瘍剤を対象として、安全キャビネット内で閉鎖式システムを使用した調製を実施している。

また、混合調製業務のみならず、外来・入院を含む全ての抗悪性腫瘍剤治療に対して、薬剤師がレジメンに基づく処方監査を実施し、適正ながん薬物療法の推進と医療安全確保に取り組んでいる。

データ提供 薬剤部